

お客様各位

皆様には、益々ご発展のこととお喜び申し上げます。

貴社のご発展と社長様はじめ社員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

※このメールに返信すると連絡がとれますので、御用の際は、お気軽にお申し付けください。



## 須黒会計インフォメーション

平成23年3月号



I | N | D | E | X |  
└ ┘ └ ┘ └ ┘

1. 【経営情報】 [経営に役立つ財務分析～流動比率・当座比率について～](#)
2. 【会計税務】 [要注意！代表者家族への給与の取扱い](#)
3. 【ヒント・ヒント】 [環境設備](#)
4. 【税務メモ】 [3月の税務メモ](#)
5. 【お役立ち情報】 [経営体力診断のご提案](#)



1. 【経営情報】 [経営に役立つ財務分析～流動比率・当座比率について～](#)



[「流動比率;当座比率」](#)

資産	負債
	純資産

1回目の～貸借対照表について～で、貸借対照表には会社の状態のヒントが隠れている  
ということをお伝えしましたが、

今回は貸借対照表の流動比率・当座比率について見ていきます。

突然、流動比率・当座比率と聞いても何のことかわからない方もいるかと思いますが。

簡単に説明すると、会社の「安全性」をみていく方法の一つなのです。

具体的には企業の支払能力が高いか低いかが判断できるのです。

この「安全性」が高いということは、企業の信用力にも関わってきます。

それは広い意味での「借金」がしっかり支払えるかどうかの判断ともいえるからです。

それではまず流動比率を求めるにはどのように求めるのか。

それは、

$$\text{流動比率} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100\%$$

と上記の計算式で求めていきます。

ここで流動資産とは何か。

流動資産とは短期に現金化できる資産で、

現金や受取手形、売掛金、在庫など

大きく見ておおむね一年以内に現金化できるもので、

流動負債というとおおむね一年以内に支払の義務があるものと考えてください。

それではどのような企業が安全でしょうか。

下図の貸借対照表を見てください。

A社		B社		C社	
流動資産 600	流動負債 400	流動資産 600	流動負債 600	流動資産 400	流動負債 600

流動比率 150%

流動比率 100%

流動比率 67%

先程の計算式にあてはめるとそれぞれの企業の流動比率が求められます。

それではどの企業が「安全性」が良いといえるか。

おそらくA社、B社、C社を見比べるとお気づきになる方もいるかと思いますが、

A社ということになります。

それはなぜかという、先に説明しましたが、

広い意味での「借金」が支払えるかどうかを見るのですから、

資産が負債よりも多いほうが良いですね。

そして、その比率も高いということは良いということになります。

どのくらいの比率が良いのかといいますと、

流動比率は一般的に150%以上が望ましいといわれております。

ではB社のような流動比率が100%場合はどういうことか。

簡単に言うと「借金」を返済したら企業には資金が残らない状態ということになります。

C社は「借金」が全て返済できない状態ということになります。

ですから、この比率を見ていくことによって、

資金的に余裕があるのかもわかるのですね。

資金的に余裕が無い状態であれば、

新しく設備投資を行うときには慎重に行わなければならないのです。

「流動比率」が低い要因としては、次のことが考えられます。

1. 在庫、売掛金などが滞留してしまって、資金確保のため短期的な借金が増加している場合
2. 買掛金や支払手形などが増加して資金調達の元手になってしまっている場合
3. 短期の借金で固定資産(土地や車、建物など)の投資を行った場合

このような場合には売掛金の早期回収や固定資産の売却など

改善していく必要があります。

また利益を出していく経営をしていくことにより改善されていくはずですが、

次に当座比率は何か。

当座比率は、流動比率よりもより短期的な支払能力を見る場合の方法です。

流動比率には在庫も含まれるとお伝えしましたが、

当座比率の場合はその在庫を除きます。

すぐにでも現金化できるもので計算します。

その場合に流動資産の中の「当座資産」と「流動負債」の比率で求めていきます。

計算式は

$$\text{当座比率} = \text{当座資産} \div \text{流動負債} \times 100\%$$

と上記の式となります。

当座比率の良いとされる比率は

一般的に100%以上とされております。

ここで「流動比率」「当座比率」で注意して見なければならない点があります。

先程の図でA社は流動資産が600でしたが

その流動資産の中に在庫が300もあるとなれば

当座比率ではあまり良い状態とは言えなくなります。

さらに売掛金が不良債権化となっている場合があれば

正しい比率が求められなくなります。

また、「流動比率」「当座比率」が高すぎるのが良いということではありません。

「安全性」からみればよいですが、

比率が高いということは「資金」を無駄に遊ばせているということも言えるのです。

余裕のある資金があるならば、

企業を成長させるためにその資金で競合他社にも負けないように





2. マネージメント・パワー(社長ご自身の経営行動診断)

社長様へのアンケート回答にもとづき、ご自身の経営姿勢(思考と行動)の現状診断を行います。

※このメールマガジンは、須黒税務会計事務所及び株式会社リードコンサルトを通して、お客様からのご紹介によりお届けさせていただいております。

万一送信を希望されない場合、末尾のメールアドレス宛てに送信中止の手続きをお願いいたします。

※このメールに他のウェブサイトへのリンクが含まれている場合にも、須黒税務会計事務所及び株式会社リードコンサルトはリンク先のページについて一切責任を負いかねます。

////////////////////////////////////

須黒税務会計事務所

株式会社リードコンサルト

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-14-16

銀座アビタシオン 701・1004

TEL : 03-3542-9755 FAX : 03-3546-1788

E-MAIL : [suguro-kaikei@sweet.ocn.ne.jp](mailto:suguro-kaikei@sweet.ocn.ne.jp)

URL : <http://www.suguro-tax.jp>

URL : <http://www.suguro-lead.com>

////////////////////////////////////